

# 2月月例報告

## 輸出の伸び「緩やかに」

判断  
弱める  
全体は「持ち直し」維持

政府は23日、2月の月例経済報告を発表した。景気は「持ち直してきている」との基調判断を7カ月連続で据え置く一方、輸出については表現を前の月よりやや弱め、「緩やかに増加している」との認識を示した。関係閣僚会議後の記者会見で菅直人副総理兼財務・経済財政相はトヨタ自動車のリコール（回収・無償修理）問題について「海外での販売状況について注意深くみていきたい」と述べ、景気への悪影響に警戒感をにじませた。

### 経財相 トヨタ問題 影響警戒

1月の月例経済報告に輸出の表現を「増加」から「緩やかに増加」へと改めたのは、金融危機に伴って急速に減らした在庫を復元する動きが世界に波及しているとの見通しを示した。輸出の伸びは鈍化するものの、プラス基調は続くとの見通しを示した。

月例での主な変更点

|      | 1 月     | 2 月              |
|------|---------|------------------|
| 公共投資 | 堅調に推移   | 堅調に推移し、動きが弱まっている |
| 輸出   | 増加している  | 緩やかに増加している       |
| 輸入   | 持ち直している | 緩やかに持ち直している      |

輸出の伸びは鈍化するものの、プラス基調は続くとの見通しを示した。

公共投資は「総じて堅調に推移しているが、このところ弱い動きもみられる」と判断。2002年8月以来の下方修正となった。09年12月の公共工事受注額は前年同月比マイナスとなり、今後とも昨年度の補正予算や09年度予算を前倒しで執行した反動がでるといわれる。輸入も、輸出の伸びの鈍化の影響を受けるため「緩やかに持ち直している」と判断を弱めた。ただ

生産や個人消費の持ち直しが続いていることから総括判断は据え置いた。一方、トヨタ自動車のリコール問題について内閣府の津村啓介政務官は「悩んでいるとの情報がある」とリスク要因として認識している」と指摘。米国の日本車販売は1月以前年同月比でマイナスとなり、2月も受注が伸び悩んでいるとの情報がある

るといふ。日本国内の自動車販売にも悪影響が及ぶ可能性があるが、「輸出、国内消費ともに影響を注視したい」と語った。海外経済では、中国景気について「回復」から「拡大」に表現を上方修正した。09年10〜12月期の実質経済成長率は前年同期比10・7%増と好調で、先行きも内需を中心に堅調に推移すると見込める。中国景気を「拡大」と表すのは08年10月以来。月例で日本の景気が「拡大」と表現したのは1991年10月が最後だ。